



自治の精神高らかに

秋田大学教育文化学部附属中学校
令和2年7月20日 発行 No. 4 文責 櫻庭



▲3年生の廊下の窓辺できれいに咲く花



▲全員の誕生日を書いている2Cの掲示物

□Environment 学びやすく、働きやすい学校

本校では、「時間、空間、仲間」の三つの「間」を大切にして、学びやすく、働きやすい学校創りに取り組んでいます。

各学年の廊下の窓辺には、鉢植えの花がきれいに咲いています。以前、本校に勤務したときに、ある先輩に次のように諭されたことがあります。「櫻庭さん、花が枯れているのにも気付かないのであれば子どもの変化には気付けないよ。子どもの指導の前に、まず花の手入れを頑張りなさい。」

先生方や係の子どもたちの花への目配りと心配りに感謝しながら、毎朝きれいな花を眺めています。

各学級の教室環境も整ってきました。どの学級も子どもの豊かな個性が躍動する掲示物ばかりです。2Cの背面には、写真のような掲示物があります。☆には、子どもの名前と誕生日が書かれています。時々、帰りの会の時間に、誕生日をお祝いする歌が聞こえてくる学級もあります。心がほっこり温くなるひとときです。

□Good Relation 絆を大切にする学校

本校では、秋田大学や四校園、県・市教育委員会、家庭や地域と連携して、絆を大切にする学校創りにも取り組んでいます。

先週から行われている秋田市3年生交流大会に、生徒や教職員は、応援に駆けつけることができません。しかし、右の写真の子どもたちは自ら進んで応援団を引き受け、先日の激励会では、心を込めた応援を送ってくれました。

また、家庭部員の皆さんは、全ての三年生の名前入りの横断幕を手作りして、各部へ贈ってくれました。美術部員の皆さんも、三年生一人一人への応援メッセージを書いたパネルを制作し、贈ってくれました。

3年生交流大会も、今週末の野球と来週末の剣道だけになりました。二つの部の皆さんには心を込めて応援している仲間との絆を力にして最後の舞台を楽しんでほしいと思います。



▲応援団の生徒たちとその活動を支えた先生方



▲各部に手作りの横断幕を贈る家庭部の生徒たち



▲授業を参観している県教育庁のみなさん



▲考えを発表する生徒と見守る数学の教員



▲真剣な表情で課題に取り組む3年生



▲3年生の朝集会を見学する1年生の代表委員

県教育庁の皆さんの学校訪問を終えて

7月16日、秋田県教育庁の中山義務教育課長、伊藤高校教育課長をはじめとする5名のみなさんに本校の授業を参観していただきました。みなさんからいただいた助言や感想の一部を紹介します。

□ICTの活用がゴールではない！

国では、児童生徒がタブレットを一人一台使えるよう、児童生徒数のタブレットを各学校へ配付する計画を立てています。そのことを踏まえて、ICT（タブレット等）を活用すると、どのような効果があるのかを明らかにする必要があるという助言をいただきました。今後は、対面授業だからできることとオンライン授業だからできることなどについて、実践を重ねながら確かめていきたいと思いをします。

□先生方の指導技術が高い！

指導技術の高さの一例として「発表している生徒を見ながらも、その発表を聞いている生徒にも目を配っている姿」を挙げていただきました。今年度、本校では、「謙虚に相手の話に耳を傾け、伝えたいことを正確に聞き取ること」を大切にしています。

そのためには、聞き手をしっかりと指導することが必要です。今後も、例示していただいた指導技術などをさらに高めていきたいと思いをします。

□生徒の姿に附中生としての自覚を感じた！

生徒が、めざす生徒像、附中三精神などの附中がめざす方向性を意識しながら、一人一人が主体的に学習しているように感じたという感想をいただき、とてもうれしい気持ちになりました。ペア学習や、グループ学習に、生徒一人一人が主役となって取り組んでいる様子から、附中生の向上心の高さを感じたという感想もありました。

生徒には、今後も「『創意』は活発自由な話合いで、『責任』はたゆまぬ努力で」を合言葉に、附中生らしさを発揮してくれることを期待しています。

□学年を追うごとに成長している！

1～3年生を比べてみると、考え方も、人間性も学年を追うごとに成長していると感じ取ることができたという感想もいただきました。

様々な経験を積み、3年生は心も体もたくましく成長してきています。2年生も1年生に模範を示すために何事にも意欲的に取り組んでいます。1年生は素直な気持ちをもって、上級生から学び取ろうと努力しています。附中の伝統が、先輩から後輩へと着実に受け継がれていることを強く感じます。